

「福岡県 WORK! DIVERSITY 事業 働きづらさを抱える人に いま私たちができること」シンポジウム開催報告

2024 年 11 月 19 日開催 主催：福岡県就労支援協同組合 共催：福岡県

イベント概要

日本財団が就労困難者の就労を大きく進めることを目指し、既存のシステムを新たな視点で活用し、個々の QOL（Quality of Life）を高め、社会に新たな労働力を輩出しようとするプロジェクト「WORK! DIVERSITY（ダイバーシティ就労）」における、本事業（日本財団 WORK! DIVERSITY モデル助成事業）の取り組みについて、事業実施者である福岡県就労支援協同組合より令和 4 年度からの事業実績、成果、課題について報告し、事業について専門的な知見からご意見をいただいている事業有識者会議座長をお招きして、有識者会議での議論を踏まえた事業についての考察を行っていただきます。さらに本事業アドバイザーとともに実際に就職に結びついた事例を分析し、支援者及び関係者と意見交換を行うことで、福岡県在住の働きづらさを抱える人を対象とした新しい就労支援モデルの創出や地域の就労支援ネットワークの構築について考えます。

また、事業の結果を踏まえて、事業実施者、モデル事業プロジェクト主宰者、国、県で効果的な就労支援実施に向けた課題、必要な動きについて議論いただきます。



日時	2024 年 11 月 19 日（火）14:00～17:00（13:15 開場）
開催形式	参加無料 対面
会場	西鉄ホール 福岡市中央区天神 2-11-3 ソリアステージ 6 階
定員	450 名（定員になり次第締め切り）
事前申込締切	2024 年 11 月 18 日（月）12:00
対象	生活困窮者、ニート、ひきこもりなど様々な働きづらさを抱える方の就労に関心のある、県民、企業、会社員、経営者、就業・就労を支援する県内の市町村、支援機関、就職支援機関、障がい者就労支援機関、教育機関、有識者等
主催	福岡県就労支援協同組合
共催	福岡県
配布資料	

(次第)福岡県WORK! DIVERSITY事業 (配布資料)事業説 (配布資料)事例パ シンポジウムアンケート.pdf 明・実践報告.pdf ネルディスカッション.pdf

プログラム（敬称略）

<オープニング>

14:00-14:20

開会挨拶 福岡県副知事

WORK! DIVERSITY プロジェクト説明 日本財団 公益事業部 シニアオフィサー

演題資料



(投影資料)WORK!
DIVERSITYプロジェ

<第 1 部> 福岡県 WORK! DIVERSITY 事業の実施から見てきた成果と課題

14:20-14:45

「福岡県就労支援協同組合について」 福岡県就労支援協同組合 理事長

「事業説明・実践報告」 福岡県就労支援協同組合 コーディネーター

演題資料



(投影資料)事業説 (投影資料)就労移
明・実践報告.pdf 行支援事業所での訓

14:45-15:10

「事業考察」 事業有識者会議座長 東京大学 教授

<第 2 部> パネルディスカッション

15:20-16:10

「事例検討」

ファシリテート 福岡県就労支援協同組合 コーディネーター

パネリスト 福岡県就労支援協同組合 理事長

訓練等実施機関 特定非営利活動法人 AFO ウイング

就職先企業 株式会社ホームラン・システムズ

支援機関 株式会社 ACR 就業支援事業部]

本事業アドバイザー 九州大学 准教授

演題資料



(投影資料)事例パ
ネルディスカッション.pc

16:10-17:00

ファシリテート 本事業アドバイザー 九州大学 准教授

パネリスト 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官

福岡県 福祉労働部 労働局 就業支援課 課長

日本財団 公益事業部 シニアオフィサー

福岡県就労支援協同組合 理事長

演題資料



(投影資料)「生困 (投影資料)「福岡
等既存制度・一部改組の主要労働施策」

<閉会>

17:00

閉会挨拶 福岡県就労支援協同組合 理事長

開催報告

本シンポジウムは、2024 年 11 月 19 日に福岡県就労支援協同組合と福岡県との共催で、西鉄ホール（福岡市）にて、県民や一般企業をはじめ、就業・就労を支援する県内の市町村、就職支援機関、若者サポートステーションやひきこもり地域支援センター等の支援機関、障がい者就労支援機関（就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所等）、教育関係機関、有識者など、400 名を超える関係者が参加しました。

オープニングでは福岡県副知事が登壇し、「ワークダイバーシティの考え方が社会に浸透し、働きづらさを抱える方々の多様な雇用機会の創出などに繋がっていくことを期待している」と挨拶され、続いて「WORK! DIVERSITY（ダイバーシティ就労）」について、日本財団公益事業部のシニアオフィサーは、日本財団が 2018 年度から取り組んでいるプロジェクト「WORK! DIVERSITY」のスキームと課題を説明され、政策実現を行い、国策化を目指すことを述べられました。

第 1 部セッションでは、事業実施者である福岡県就労支援協同組合から事業の概要と、令和 4 年度からの事業実績、これまでの成果と課題について報告し、事業有識者会議座長は、今後、この事業が全国で実施される場合のポイントとして、課題が 3 点あげられました。①対象者の適格性の判断、②協力事業所と市区町村との連携システム、③出口のデザイン設計（同時に入口のデザイン設計）

第 2 部「事例検討」のパネルディスカッションでは、実際に就職に結びついた 2 つの事例をもとに、本事業アドバイザーとともに就労移行支援事業所、支援機関、就職先企業で意見交換を行い、本事業アドバイザーから「社会資源や人的資源が限られている地方では、福岡モデルのような関係機関が有機的に連携する、多方面から支え合う支援体制の構築」の重要性が強調されました。続く「今後に向けての展開」のパネルディスカッションでは、地域の社会資源に応じた制度設計が求められることを踏まえて、国、県の効果的な就労支援実施に向けた課題、必要な動きについて考えました。最後に、福岡県就労支援協同組合理事長の「皆様にワークダイバーシティの大切さを届けたい」との期待を込めた言葉で締めくくりました。

シンポジウムの様子



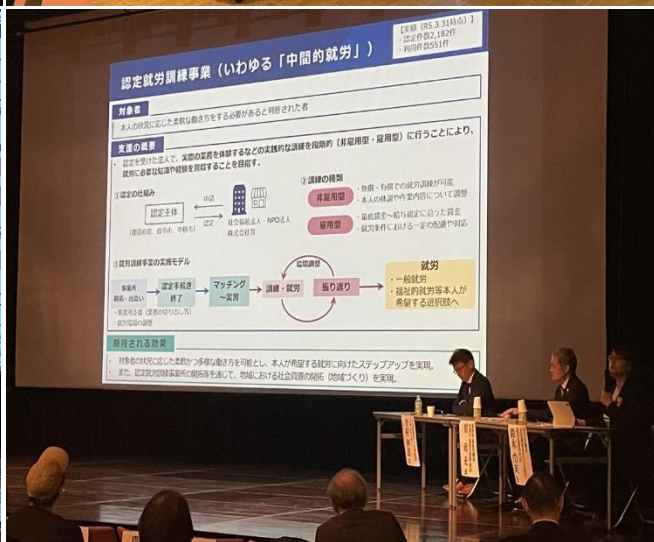
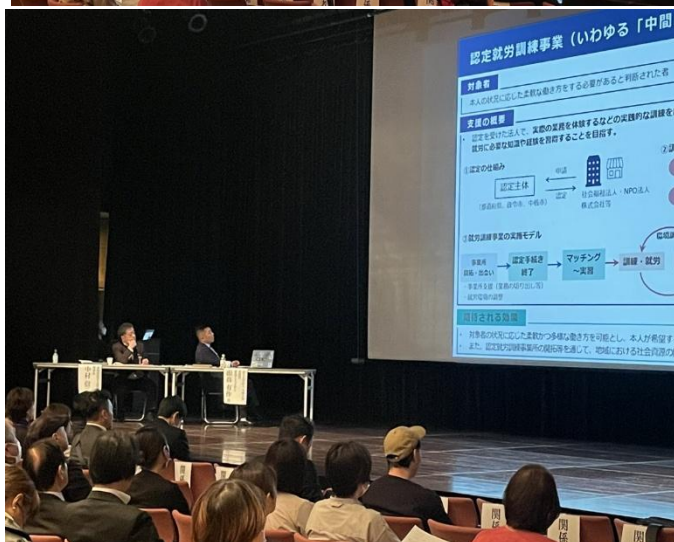
開会挨拶



WORK!DIVERSITY プロジェクト説明の様子



第1部 事例報告・実践報告、事業考察の様子

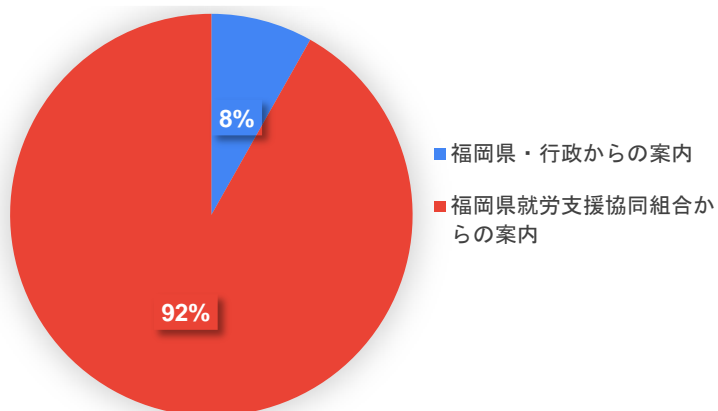


第 2 部 パネルディスカッションの様子

アンケート集計

□ 参加者数

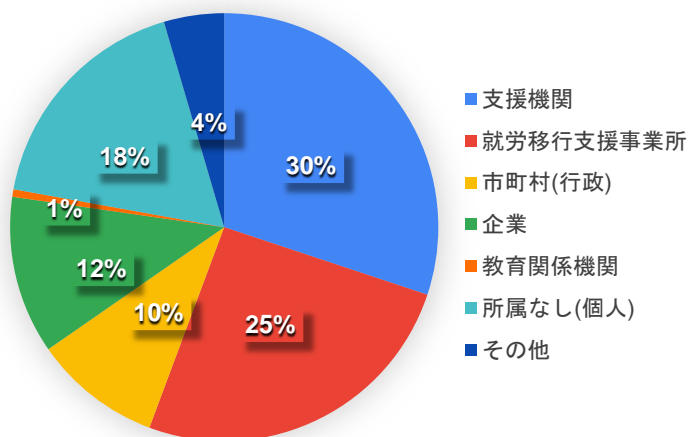
	人数
福岡県就労支援協同組合からの案内	348
福岡県・行政からの案内（福岡県だより含む）	31
（登壇者、スタッフ関係者）	(23)
総数	402



□ アンケート集計

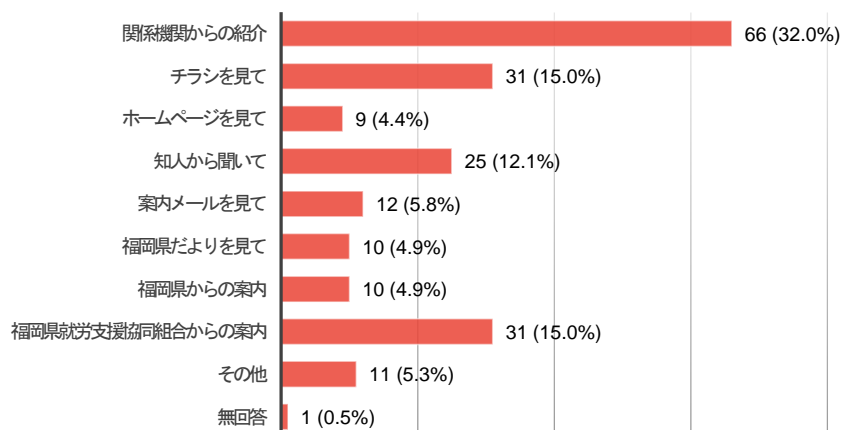
1. ご所属を教えてください。

	回答
働きづらさを支える方の支援機関	53
就労移行支援事業所	45
市町村（行政）	17
企業	21
教育関係機関	1
所属なし（個人）	31
その他	8
	176



2. シンポジウムは何を通じてお知りになりましたか？（複数回答可）

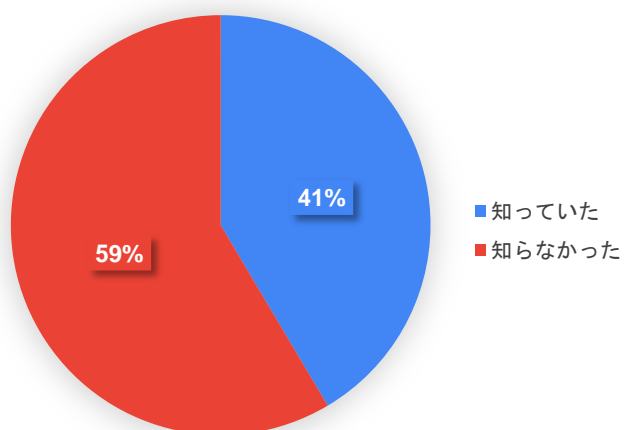
	回答
関係機関からの紹介	66
チラシを見て	31
ホームページを見て	9
知人から聞いて	25
案内メールを見て	12
福岡県だよりを見て	10
福岡県からの案内	10
福岡県就労支援協同組合からの案内	31
※その他	11
無回答	1
	206



※その他：西日本新聞、社会福祉協議会ホームページ、ときめきショップ等

3. 福岡県 WORK!DIVERSITY 事業のことはご存じでしたか。

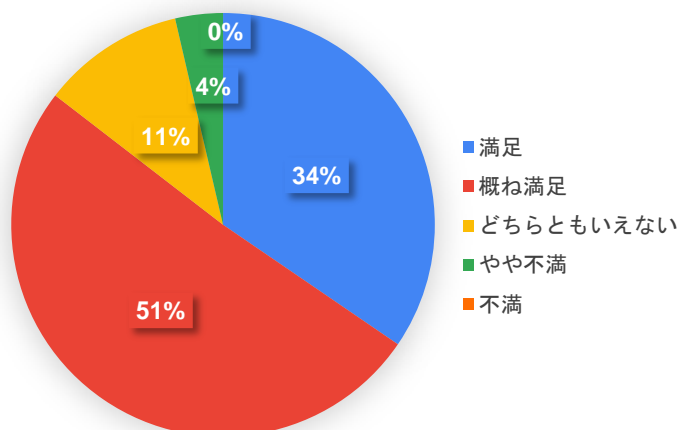
	回答
知っていた	73
知らなかった	103
その他	0
	176



4. シンポジウムへの満足度を教えてください。

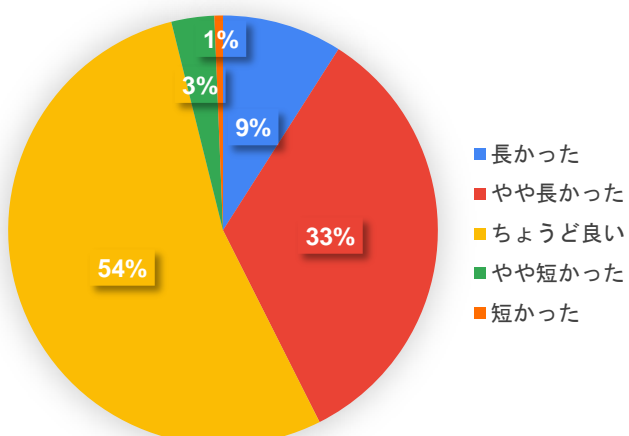
シンポジウムの内容（満足度）

	回答
満足	57
概ね満足	84
どちらともいえない	18
やや不満	6
不満	0
無回答	11
	176



シンポジウムの時間（満足度）

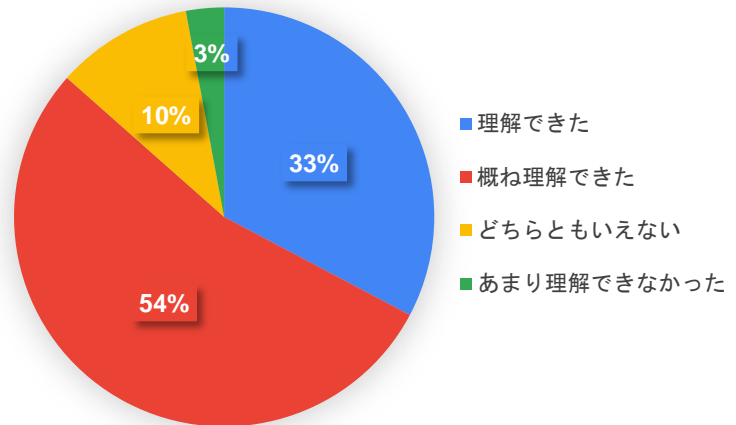
	回答
長かった	14
やや長かった	52
ちょうど良い	83
やや短かった	5
短かった	1
無回答	21
	176



5. 福岡県 WORK!DIVERSITY 事業について教えてください。

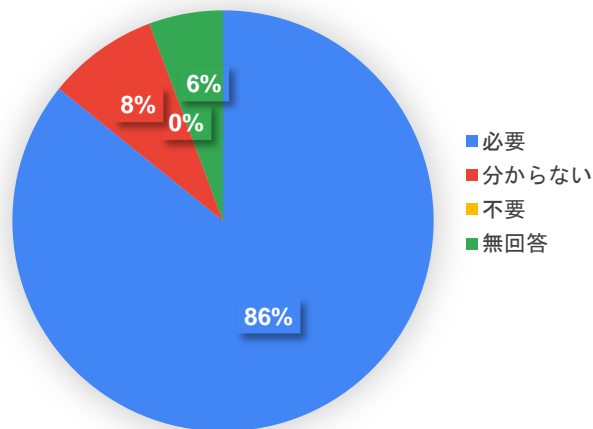
事業の内容（理解度）

	回答
理解できた	56
概ね理解できた	92
どちらともいえない	18
あまり理解できなかった	5
無回答	5
	176



事業の必要性

	回答
必要	151
分からない	15
不要	0
無回答	10
	176



「必要」と回答された方

支援機関

- ・みんなが好きな仕事をして生活することは人の尊厳だと、今日気づかされた。
- ・制度のはざまにいる人が支援を受け、就労をふくめた望みを人生でかなえていけるように。また労働者となることが社会貢献、地域貢献ができるようになることで本人の自己実現だけでなく社会的にも他の人を支える役割を持つことができるから。
- ・支援を受けている立場なので、こうして支えて下さる方々のお陰でお仕事ができているんだと思うと、働きたいという意欲が出てきたから。
- ・必要かも
- ・様々な要因で働けない方と業務を通じて出会っています。この人も使ってほしいなと思いながら聞いていました。
- ・不登校が増えている中、今後、就労困難者も多くなるとわれ、より必要になると思います。
- ・働きたい意欲があるのに働けないのはもったいないと思うし、応援したいと思う。
- ・就労支援の制度上不備な部分を埋めるには不可欠。特に障がい有無に関わるグレーゾーンをカバーする役割は重要。しかし、これに対応し得るまでになるには、まだまだ不十分かと思う。事業終了後も代替事業の展開に期待する。
- ・働きたいと思っているが、生きづらさや働きづらさを抱えている人が多いため、サポートが出来る体制は必要。
- ・様々な要因で働きにくさがかかえている人は沢山います。社会へつながっていく糸口になっていると思う。
- ・制度の狭間に落ちてしまう方に対しての就労のサポートとして、重要な事業だと認識できました。
- ・働けない方に障がい者というイメージを取り払う必要があり、本当に支援が必要な人に支援が行き届かないということがないようにしてほしい。
- ・働きづらさを抱える対象を幅広くとり込める事業であるため
- ・社会全体の課題だと理解する。
- ・障がい者にかかわらず支援できるので。
- ・障がい福祉サービス受給者証を取るまでに至らず、障がい福祉サービスを利用できない方がいるので。
- ・仕事の場で求められるベースが高いように感じている。対象者のためだけでなく多様性を包摂できる職場をつくっていければ、今働いている人にとっても利がある。

- ・障がいがあったおかげで訓練してまず相談する習慣をつけられたこと。時代に合わせて知りたいことを検索する力がつき、金銭管理のやりくりの勉強の習慣をつけられたこと感謝です。ただ一般の人の中にも困っている人は沢山おられると思いますので是非がんばってほしいです。
- ・なにをどうしていいかわからない、どうすることもできない方々がたくさんいらっしゃるから。
- ・カテゴライズした支援のすき間をうめる事業と間口を広げた支援が必要なので。
- ・絶対必要
- ・制度のすき間へのチャレンジを理解できた。
- ・多様な窓口と内容がすべての市民の救済に必要だと思う。
- ・この事業の対象となる方々を支援中のため。
- ・働きたいと思っていても本人のみの努力では就職できないが、就職し働くことに対するサポートがあれば働く事が容易になると思われるから。

「必要」と回答された方

就労移行支援事業所

- ・自分と似た人や、自分とは違うけれど、就職が難しい人でも長く続けられる職を見つけられるかもしれないから
- ・働きづらさをかかえている方を多数見ているが、福祉サービスでは限界があるため
- ・困っている人がいるから
- ・一人でも多くの方が、手帳の有無に関係なく就職できれば良いから。
- ・潜在的利用者の可視化が進めば、その他の社会問題の提起にも繋がるため。
- ・グレーゾーンの人が就職できる道標を作って下さり、ありがとうございます。
- ・資料を読み、現状の声が聞けた。
- ・働きたいと思うみなさまに就労の機会を与えるために・・・
- ・フォローしたいのにできないことが多いため
- ・障がい者に限らず、一般の方にも就職に対しての支援を検討してほしい。
- ・知らない世界のお話を聞けました。
- ・働きづらさといっても対処法が自分でわかっている人ばかりでない。そういうところを企業側に伝える必要がある。一番いいのは企業の中にその機関があること。
- ・障がい者手帳や障害福祉サービス受給者証を持たない方が就労に結び付けるため。
- ・自分自身も障がいがあり、就労移行を利用している身として、とても支えられています。不安の解消が出来ないのは、知れない事も大きな理由だと思うので、サポートを受けるのはとても大切な事だと思います。この度はありがとうございました。とても為になります。
- ・特にひきこもりの方を福祉サービスにつなげることで、本人だけでなく周りの人たちも救われるから。
- ・手帳がない・障がい福祉サービス受給者証もない、働きづらさを抱えた方達への支援、ものすごく大事なことで、たくさん利用したい希望者さんが地域にまだまだ埋まっていると思います。
- ・求めている方が多いと感じたため

「必要」と回答された方

市町村（行政）

- ・他にこのような事業をされているところがない、とても刺激になりました。
- ・大人の発達障がい含むグレーな就労困難者への資源になり得るため。
- ・障がい福祉サービスにのらない人達の社会資源の少なさ ひきこもりの方が社会参加したいと動き出した時にそのスモールステップがない
- ・制度のはざままで支援からまれる方がいるのは現実問題であり、なんらかの介入は必要と考えます。訓練する場が大切だと思い、受け入れられる事業所が福祉への移行だと思います。
- ・潜在的にも対象となりうる人は多いと思う。労働力としても今後活用しないといけないと思う。
- ・引きこもったり、就職できなかったり、続かなかったりする理由がわかっていないことが問題。WD に関わることで得意・不得意を把握し、本人に合った就職ができれば長続きすると思う。

- ・手帳等ない方の支援は課題です。
- ・グレーゾーン等働きづらさの自己理解をできていない人が苦しんでいる。診断を本人が受け入れない場合が多く、希望がもてると救われる人がたくさんいる。
- ・これまでにない今必要な取り組みだから。社会参加の促進、人手不足の解消など多くの課題の解決につながるから。
- ・必要だとは思うが、対象者の適格化や制度化に向けても自治体の自由度など課題も多いと思います。

「必要」と回答された方

企業

- ・制度のはざまにいる方の就労のきっかけになると思った。
- ・人としての自立を支援できるという社会貢献と今後の日本の労働力を向上させる為にも必要だと感じました。
- ・社会的に排除されている人々特に個人に対してフォーカスして根本的な問題に取り組んでいると思います。人と人とのつながりが希薄になる中、特に福岡は人間味に溢れていると感じました。
- ・皆で考える時間になります。
- ・雇用を通じて社会とのつながりを持って頂きたい。
- ・制度の狭間となっている課題に対して注目され、他エリアでも動き出すきっかけとなるように感じたため。
- ・障がい者だけでなく就労困難者を見つけ、適切に支援し就職させられる仕組みは、日本の社会に良い成果をもたらすと思うため。
- ・当方も発達障がい者をかかえ、いろいろ考えた上で、他の障がい者もふまえて考えていきたい。
- ・自身が支援が必要だとまず気づいて受入れる事が大事＝第3者からしか言えない！一歩ふみだす為のサポートがしっかりしてる為

「必要」と回答された方

所属なし（個人）

- ・人間の尊厳を大切にすることがみんなの幸せ、世界の平和につながると思うから
- ・最初の方で話が出た障がいのある方への支援は確かに充実していると思う。みんなが（支援を受けている人）が就労することが出来ると大きな財源につながる。等
- ・生活困窮者にこういった支援があることを知らなかったの、この取り組みに明るい未来を感じた。
- ・障がい者ならびに就労困難者に対するサポートは必要。利用者から就労者へとても大切だと感じました。
- ・現代社会において、何らかの障がいを抱えた方々の支援は、その人のため、社会のため、必要だと思う。
- ・どうしても働くことが難しい人がいるので、その人達をサポートする人が必要だなと感じた。
- ・国の助けが必要です。
- ・障がい者手帳を持たない場合、相談場所が、市それぞれ違ってわかりにくく、ここ！というところがあることがわかりやすい
- ・グレーゾーンや障がい者手帳をもっていない状況の方も多い。そういう方を発掘し、支援することが人材不足等社会問題を解決できる可能性があるため。
- ・多様性が尊重される現代において、これ迄声に出せなかった生き辛さを発する事が認められる様になったと思います。それに対する社会の受け皿はまだ不足しているし、課題でもあります。その課題を全国の行政が主体となり取り組む事は大事だと思いますし、必要であるとも考えます。
- ・就職活動に大事なので必要だと思います。また違うセミナーのイベントあれば参加したいです。
- ・福祉の目からこぼれてしまう人たちの最後のとりでとなる事業だから。
- ・自分も働く事がむずかしく、お仕事ができていないから。
- ・障がいはグラデーションなので中間の人は既存の支援の仕組みからもれてしまう。

「分からない」と回答された方

- ・話にていましたが、「適格性」が不明確、整理できるか（企業）
- ・新たに事業として必要なのか？今ある事業が担う事は出来ないか？（支援機関）
- ・まだ理解できていない（市町村（行政））